

1400怒りの総決起の前に 3.5破壊オルグ 大破壊

いつ、どこで、誰が指示したのか？ 本部・関東は答えよ

すべての闘う組合員の皆さん！
われわれは、昨日（三月五日）動労内革マルとそれに追いつく反動分子の「千葉地本再建」をかたった「千葉地本破壊オルグ」なるものを、一四〇〇組合員の早朝からの怒りの総決起体制をもつてもの見事に粉砕し、勝利したことを声高らかに報告する。

反動分子どもは、「本部・関東青年部は千葉地本再建のために、三月五日千葉地本全支部に対する『交流オルグ』を実施するので東京地本に朝八時に集合せよ」（三月四日昼頃、突如として動労中野支部掲示板に掲示した内容から）と「緊急連絡」の掲示を貼り出し、急拠組合員に年休をとらせ「千葉地本破壊オルグ」の為にのみ動員したのである。これも当然のことながら、機関確認も

本部指令もない、組合私物化「セクトひきまわし」の典型であるがゆえに、われわれと反対同盟・支援共闘の決起、全国組合員の注視の中でみじめにも「破壊オルグ」は破産したのである。
まさに一度目（水上結集）は悲劇、二度目（東京地本再建）は喜劇ではないか。

しかし、われわれは許しはしない。「三・五破壊」オルグを計画したのは誰か、いつどこで誰がこのような許しがたい暴挙を決めたのか。まさに組合私物化ではないか。本部・関東地評はこの事態を説明せよ。われわれは、あくまでも動労運動の階級的再生にむけて闘うことを明らかにする。

恒例となった、地本主催による退職者激励会が三月一日、一三時より動力車会館会議室において開催された。

本年度退職者は、国鉄の年齢構成からいって「きの子型」の典型的な部分の三五名が退職することとなった。各支部の努力により、退職者の大多数が地本OB会へ加入し、一線をしりぞいても、幾多の闘いの中でつちかてきた、動労千葉の闘魂を受け継いで、OB会組織の強化と運動の前進を勝ちとることを、全体で意志統一した。今後も、千葉地本の闘いを全体で包み、支援してゆくことを確認し、激励会は、和気合々の内、成会裡に終了した。

諸先輩の苦勞の中でこそ、動労千葉の運動は大きく飛躍した

―関川委員長が激励の挨拶―

激励会は、各支部の退職予定者三名、支部役員、OB会の安戸会長、長谷川・松田両副会長、地本からは三役、執行部など多数が参加する中で開催された。

挨拶にたった関川地本委員長より「今日まで動労千葉を大きく支えてくれた、皆さんに敬意を表すると」

退職者激励会



もに、機労結成、動力近代化、合理化、運転保安など様々な闘いを先頭で闘い抜かれたこと、さらには、そうした苦しい闘いの中で築き上げられた動労を、改革するために闘い抜

ている問題を正しく認識し、共に闘い抜こう。いつまでもうまい酒を呑めるためにも」とユーモアを交えた挨拶がされた。

四〇年の闘いの教訓をOB会の発展に生かす
―退職者代表あいさつ―

この後、各支部役員から参加者の紹介がされ、退職者を代表して、元地鉄の遠藤留吉氏（館山支部）から「今日のような会を開いて戴いたことに感謝します。仲間と歩んだ四〇年はふりかえれば色々な思い出としてのこる。何よりも、組合が強くなり発展したことを喜んでいいます。これからOB会運動に寄り添い、動労の階級的復権をめざす千葉地本の闘いを常に支持してゆく」と決意をこめた挨拶が行われ、長谷川OB会副会長の首頭で、乾杯を行って、懇親会に移った。

手造りの仕出しをつまみながら長年の闘いの思い出話や、意見交換などが行われ、はては、自慢の歌や、とっておきの芸が披露されるに至って、昨年を上回る活気に溢れた激励会となり、一六時すぎ、お互に次はOB会で逢うことを全体の拍手で確認し合い、解散した。

つくろうさま。いつまでも
お元気で活躍を!!
3月2日 動労千葉を
育て築いた35名の退職者激励会開かる
“動労千葉魂で、まだまだ、バリバリ頑張るぞ”……